

平成26年度 学校自己評価表 (計画段階 **実施段階**)

77

福岡県立八女農業高等学校長 印

No. 1

学校運営計画 (4月)				評価 (3月)		
学校運営方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指し、農業の意義や役割の理解と、「農業に関する将来のスペシャリスト」として必要な専門知識・技術を習得させる。 校訓「自律・創造・協同」を旨としながら、より良い校風の樹立に努め、「厳しきや苦しきに耐える自律心」、「感謝と思いやりの心」、自己実現のため必要な「創意工夫する創造力」を育成し、農業及び地域産業並びに地域社会の発展と活性化に貢献できる人材づくりを目指す。					
昨年度の成果と課題	26年度の重点事項	具体的目標				
昨年度、生徒の対外的活動の成果は、近年希に見る実績を上げた。制服等の身だしなみも改善されてきた。今年度も引き続き生徒の活動の支援を行い、実績の向上を図っていく。また、昨年に引き続き100%の進路実現を目指す。	確かな学力を育成し、農業に関する将来のスペシャリストとして必要な専門知識・技術を習得させる。	○学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、日常の授業に対して熱心に取り組む態度を育成する。○安心して授業に取り組む学校環境を作る。		A		
	生徒一人一人を見据え、学習への積極的な取組と活性化を実現するため、「基礎・基本学習の徹底」を図る。	○教科・科目全領域において基礎学力の定着と充実に向け、授業の工夫改善を図りきめ細かい指導を行う。○少人数クラス、習熟度別学習の充実を図り、生徒一人一人の学習能力向上に努める。				
	自律心と思いやりのある心豊かな人間形成に向けた取組を推進し、いじめの撲滅を目指す。	○挨拶等の礼儀作法、時間厳守、掃除の徹底、服装等の基本的な生活習慣を確立するための指導を全職員で取り組む。○全職員の情報網を活性化、スクールカウンセラーを活用して、いじめの発生防止、早期発見に努める。				
	学校の教育活動全般において、人として正しき判断し、行動できる生徒を育成する。	○生徒会活動及び農業クラブ活動の活性化を図り、農業高校の特色を活かした取組をとおして実践力のある生徒を育成する。○部活動加入を推進し、併せて学校活性化を図る。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)		次年度主な課題	
学校経営	時代に即した特色ある教育課程を編成し、学校教育システムの機能化を図る。	企画運営委員会を中心に、学年、学科及び各部の連携を図る。 各部・各種委員会の活動重点目標を明確化し、全職員の共通認識を図り、実施後の成果を検証し評価を行う。	B A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>主幹教諭配置2年目迎え、安定した校内体制の構築を図り、組織的な各部の連携を推進する。</li> <li>入学希望者を増やすために、特色ある教育内容をさらに充実し、地域や中学生及び保護者に対する広報活動を積極的に展開する。</li> </ul>
	危機管理体制の強化を図る。	危機管理マニュアルを再構築し、非常時の対応意識を向上する。 教職員の不祥事防止に向け、研修会等を積極的に開催する。	A A	A		
	専門学科の教育内容・指導方法の充実を図る。	教育内容の充実を図るため、八女農アクションプランの実現を目指す。 地域・外部機関と連携を強化し、専門学科の教育内容を充実させる。	B A	B		
進路指導	職員の連携体制を強化して進路指導の充実を図る。	3学年および各学科との情報交換を実施して生徒の進路意識を高める。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も生徒の希望進路100%実現に向けて本校における進路指導体制の見直し・強化を検討して、生徒が「可能性を実現できる」という意識への改革とキャリア教育の充実をすすめる。特に就職先の新規開拓や信頼関係づくりに向けた企業訪問を実施していくための人的配置や常勤事務員の雇用による進路指導体制の充実を目指し、生徒の多様な進路に対応していく。</li> </ul>
		全職員による企業訪問を実施して積極的に進路情報を収集する。	A			
		進路部における進路面談等を実施して積極的な進路室の活用を推進する。	A			
		全職員による面接指導を実施して生徒の進路実現を支援する。	A			
	系統的な進路計画を進めて生徒の自己実現を図る。	3年間の進路計画を実施して系統的な進路計画の充実を進める。	A			
		働くために必要なスキルの構築と資格取得の推進に努める。	A			
生徒の希望する進路開拓を進め、卒業後の離職率を低下させる。		B				
希望進路の実現100%を目指す。	進路のしおりの有効活用と充実を検討する。	A	A			
	進学指導の充実を図り、進学希望の実現100%を達成する。 就職希望者の進路実現100%を達成する。	A A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
教科指導	学習意欲を高め、学力の向上を図る。	学期毎にシラバスを活用し、各科目の学習目標および学習内容、評価方法を理解させる。各学級にシラバスを配置し、生徒がいつでも確認できるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻者の増加とともに、クラス全体で取り組む雰囲気弱まりつつある。また、提出物の締め切り厳守については今後も粘り強い指導が必要である。</li> <li>落ち着いた雰囲気での学習できる環境にあるが、意欲を持った生徒をさらに伸ばし、苦手な生徒も学習に興味を持つ指導方法を模索していかなければならない。</li> </ul>	
		朝読書・学習により、基礎学力の向上を図る。考査前学習の定着。	B			
	規律ある授業を実施する。	朝読書(SHR)、始業、終業時間を厳守し、規律ある授業を行う。	B	B		
		机、椅子の整理、整頓を行い、学習環境を整え、授業を開始する。	A			
	専門高校の特色を生かした教育課程について協議する。	新学習指導要領の完全実施を受けて、各学科の特色を生かしたカリキュラム編成を行う。	A	A		
	4年制大学(推薦入試を利用した国立大学農学部等)の指導を充実する。	A				
生徒指導	学校教育全般を通じて、生徒指導が実践できるように取り組む。	月に1度、風紀指導強化週間を設けて規範意識の高揚をはかる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が、自信と誇りを持ち生き生きとした学校生活を送り、自尊感情を高め個々の良さや可能性を伸ばすため、学校行事や全ての教育活動において、責任をもって行動させ、できたことを褒める取り組みを充実させる。</li> <li>服装頭髪指導における効果的な指導の在り方、交通違反や事故の減少を目指した指導の工夫、改善を行う。</li> </ul>	
		月1回の全校集会・学科別集会での指導をする。	A			
		帰りのホームルームでの整理整頓と身だしなみをきちんとさせる。	B			
		全職員による、服装・頭髪・着こなし指導を充実させる。	A			
	生徒指導心得を充実させ、指導内容や方法を全職員が共通認識のもとに協力して指導できるようにする。 (組織的、計画的、継続的指導)	生徒会による集会での主体的な活動を促進し、挨拶運動を推進する。	A	A		
		生徒会新聞を年に3回発行する。	B			
		各種委員会活動の活性化を推進し、生徒会行事を成功させる。	A			
		交通事故0をめざした活動を展開し、免許取得規定の徹底を図る。	B			
	アルバイトや免許取得における許可申請の徹底を図る。	A				
保健指導	生徒の健康状況の把握・理解、健康に関する意識高揚をめざして。	生徒の健康状況の把握および改善へ向けた取り組みを進める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる領域を活用して、生徒に「健康の重要性」を理解させていくことを重点課題として取り組んでいく。</li> <li>スクールカウンセラー制度および訪問相談員制度をさらに活用し、個々の生徒へ丁寧に対応していく取り組みを充実させていく。また、職員の生徒理解を深めていく研修会を設定していく。</li> <li>学校生活が安心、安全であり、生徒たちが自己実現に向けて大きく成長でき、快適な教育環境であるように改善し、取り組んでいく。</li> </ul>	
		あらゆる領域・あらゆる場を活用し、生徒へ「健康の重要性」について理解させ、意識高揚を図り、健康づくりへの取り組み・改善をめざす。	B			
		生徒の健康状況に関する情報を教職員が共有し、生徒の学校生活を正しく理解し、改善に向けて支援していく。	A			
		健康教育推進事業(スクールカウンセラー制度・訪問相談員制度)について、生徒・保護者へ周知、生徒・保護者の心の相談や事後指導に対応する。	A			
	安心・安全、快適な教育環境づくりへの取り組み。	「防災教育」への取り組みと本校「防災マニュアル」作成に向けて検討。	A	A		
		薬物乱用防止講演会の実施。(5月29日 2限目 長崎税関)	A			
		本校薬剤師による本校環境の調査・点検。	A			
	委員会活動の活性化。 (保健委員会・美化委員会)	保健委員会による健康教育を進める。(保健便りの発行)	A	A		
		保健委員会と美化委員会の特徴ある活動に取り組む。	A			
	庶務・広報	式典・行事等の企画・立案及び円滑な運営を図る。	学校運営に係る企画・庶務全般の運営を円滑に行う。	A		A
会議・行事に係る資料の印刷・管理を行う。			A			
PTAとの連携を図り、PTA活動を円滑に行う。		PTA総会、地域懇談会等の企画・立案及び円滑な運営を図る。	A			
		PTA各種委員会活動全般への支援を行う。	A			
広報活動を活性化し、中学生や地域にアピールする。	広報誌等の発行、マスコミ等の連絡調整を行い、本校をアピールしていく。	A	A			
	学校案内を発行し、よりわかりやすいものにしていく。	B				
研修	職員研修の充実と研究紀要の内容の刷新をする。	授業アンケートの積極的活用を図る。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートは、ほぼ計画どおり実施できた。次年度も計画どおりに実施する。</li> <li>視聴覚教室・教材の適正な利用および校務用パソコンの有効な活用を図るための工夫を行うとともに研修を推進する。</li> </ul>	
		研究紀要の内容を精選し、研修成果の共有を図る。	A			
	HPの適切な更新と内容の充実。	特色ある行事の記録のデジタルデータ化を行い、HPに反映させ、充実させる。	A			A
		HPの更新を頻繁に行い、魅力あるHPにする。	A			
PC・ネットワーク・視聴覚機材の積極的利用の推進と管理。	校務用ネットワークの共有フォルダの積極的な利用と適正な管理を行う。	A	A			
	視聴覚室運営の円滑化を図る。	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
第1学年	基本的な生活習慣を確立する。	時間を守らせ、すすんで挨拶できるように継続的に指導する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間については継続的な指導と保護者との連携をさらに強化する。</li> <li>進路目標が漠然としており、具体的な取組ができていない。進路情報の提供や個人面談を重ねて意識を高める。</li> <li>規範意識を高めることができていない粘り強く指導を行う。</li> </ul>	
		学習習慣を確立できるように、教科担任との連携を密に図る。	A			
	進路目標を決定する。	進路情報を提供して意識を高めさせ、計画的な個人面談と、家庭との連携を図る。	B			
		各種検定・資格取得に向けて指導を継続的に行う。	A			
規範意識を高める。	正しい判断力を身に付けられるように、HRを通じて継続的に指導する。	B	B			
第2学年	学習環境の整備に努める。	各考査に向けた学習の取り組みを教務と協力して実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な生徒指導により問題行動を未然防止する。</li> <li>進路指導の一環として遅刻・欠席を減らす。</li> <li>全員進級に向け学習指導を行う。特に追試の取り組みが不十分な生徒が多かった。</li> </ul>	
		全員進級に向けて、情報の収集と適切な指導を強力に進める。	B			B
	進路決定に向けた取り組みを充実させる。	個人面談を計画的に行い、生徒個人の実態把握に努める。	A			A
		進路指導部と協力し、生徒の進路意識の高揚に努める。	B			
生活指導、風紀指導を充実させる。	問題行動につながる内容については情報を共有し、クラスを超えて取り組む。	B	A			
第3学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	服装・頭髪指導、挨拶の励行、言葉遣いの指導を徹底する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任だけでなく、学年全体で面談や教育相談を定期的実施し、一人ひとりの進路目標決定に向けて適切に指導し、生徒の進路実現の取り組みを援助し、進路希望の実現を図る。</li> </ul>	
		校内美化活動の徹底	A			
	進路実現の取り組みを充実する。	進路実現のため各種検定・資格取得を積極的に推進する。	B			A
		国公立大学受験者への指導の徹底。	A			
学校行事への積極的な参加促進を図る。	生徒会活動・農業クラブ活動・八女農祭の企画運営。	A	A			
農務部運営	農業クラブ活動の推進。	クラブ員意識の高揚と協力体制。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も農業クラブ各種競技会で素晴らしい成果を残した。来年度も各学科で責任をもって指導してほしい。</li> <li>学校理解・地域連携では新聞・ラジオ等で学校PRを行ったがもっとマスコミ関係者と連携をとり、農業教育活動をPRする必要がある。</li> <li>今後もまだまだ活かせる農場、実験室、実習室の整備が必要である。</li> </ul>	
		各種競技活動の推進。	A			
	地域連携事業の推進と学校理解・農業教育の普及活動。	学校理解・地域連携事業(未来を切り拓く人材育成事業等)を充実する。	A			A
		各学科と連携を図り広報活動を推進する。	B			
農場施設設備・備品の改善と農場の環境整備の推進。	インターンシップ事業を推進する。	A	A			
	機器・器具の整理・整頓及び有効活用、充実した備品の購入。	A	A			
農務職員の協力体制の構築。	授業に活かせる農場・実験室・実習室の整備。	B	A			
	定期的に学科主任会議、農場全体会を開催し、情報の共有化と意思統一を図り、各科協力して取り組む。	A				
生産技術科	教育内容の精選と充実。	プロジェクト研究の充実を図る。一人1テーマ。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>北山農場の有効活用で特色ある教育内容を実践する。</li> <li>専門教科を通じて、規律ある授業や生活態度を指導する。</li> <li>専門教育を総合的にとらえ、研究テーマを設定し実践する。</li> <li>学科・学年と連絡を密にし、進学・就職への取り組みを徹底する。</li> </ul>	
		生産から流通まで系統的に学ばせ農業経営教育を充実する。	A			B
		農業経営実践指導のため分析機器等の学習教材の充実を図る。	B			
	地域に貢献できる活動の充実。	販売実習の充実や地域連携により望ましい職業観を育成する。	A			A
		農場の環境美化を行い、地域にアピールできる農場作りをめざす。	A			
	組織的な進路指導。	進路の早期決定のための情報収集やグループ活動を行う。	A			A
学年団と連携し、組織的、定期的な進路指導を行う。		B				
	職業資格の取得を積極的に支援する。	A	A			

システム園芸科	教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る。	教科指導を通して先進農家、農業関係機関等との連携を図り、先進技術の知識や技能の向上に取り組む。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る。</li> <li>基本的な生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る。</li> <li>基礎学力及び学習意欲の向上を図る。</li> </ul>
		農業生産物の充実と付加価値のある農作物生産を構築する。	B			
		プロジェクト学習を積極的に取り組み、学習意欲の向上を図ると共に自主性を身につけさせ、生徒の探求心を引き出させる。	A			
	基本的な生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る。	毎時の授業において服装、頭髪、挨拶、言葉遣い及び時間厳守等の指導を行い、規律ある学校生活を送らせると共に欠席、遅刻、早退の改善を徹底させる。	B	A		
		遅刻、早退、欠席をした生徒には、居残り実習行いながら生徒とのコミュニケーションを図る機会とする。	A			
	基礎学力及び学習意欲の向上を図る。	資格取得を積極的に取り組み、多くの取得を目指しスキルアップを図る。	A	B		
興味・関心を引き出す授業を展開する。		B				
生物利用科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成。	プロジェクト学習の積み上げによる課題解決能力の育成と、農業クラブ活動の充実。各種競技会で2個の最優秀賞を獲得する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>八女農ブランド品の新商品開発を行う。</li> <li>プロジェクト学習の継続的な活動に取り組む。</li> <li>3年間を見据えた専攻学習を計画通り実施する。</li> <li>学科と学年の連携を強化し、当たり前前かが当たり前前にできる生徒を育てる。</li> </ul>
		資格取得の推進と八女農ブランドの積極的な開発による農場予算の増収。	B			
	社会の一員としての生活指導と安全指導の充実・徹底。	月2回の定例会議での情報の共有化を図り、教師間で生徒指導目線の一致。	A	B		
		インターンシップ事前指導の徹底と受入先の開拓。企業とのネットワーク作り。	B			
	開かれた学校作りの推進と地域との連携・PR強化。	北山農場における動物科学専攻施設の地域開放（動物園化）と 出前授業・開放講座地域行事への参加等の意欲的な活動の定着。	A	A		
		HPや学校便り、生物利用科便り、道の駅や販売所のパネルで積極的に発信し、生物利用科の取り組みや学習内容を地域に理解させる。	A			
	分かる授業を通じた学習意欲の向上と基礎・基本の確実な定着。	学習意欲を喚起する指導方法の工夫改善、3年間を段階的に見通した学習指導。	B	A		
		進路希望を実現する「確かな学力」を身につける教育の実践。	A			
生活科学科	農業分野・フードデザイン分野・ヒューマンサービス分野の充実発展を図る。	地域に学び連携するため体験交流学習や外部講師による授業を導入する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人招聘事業など、新しい内容の事業展開を図る。</li> <li>授業開始時、終了時の挨拶や身だしなみ（頭髪・服装）等基本的な生活習慣や社会的マナーを身につけさせるための職員間の意思統一をさらに強め徹底させる。届け出を徹底させる。</li> <li>学習発表会を円滑に進めるための設備等充実させる。</li> <li>進路を踏まえた資格取得の指導を行う。</li> </ul>
		「地産地消」・「圃場から食卓まで」の取り組みを進めるために改良普及センターをはじめ諸機関と連携し情報の収集や新しい知識技術の習得に努める。	A			
	基本的な生活習慣および社会的な生活習慣の確立を目指す。	授業開始時における服装頭髪指導、日常生活における挨拶、言葉遣い、マナー指導等、職員間の意思統一と徹底を図り進路指導につなげる。	A	A		
	科学的思考と問題解決能力を育成する。	1年生は「農業と環境」、2年生は「農家生活管理」3年生は「課題研究」・「農家生活管理」で学習発表会を実施する。	A	A		
各種の資格取得に向け、指導を充実させる。	専門的な資格に加え卒業までに日本語ワープロ検定および表計算検定3級を取得させる。さらに希望者には上級の検定資格の取得指導を行う。	A				